

資料から見る「継承」

アーカイブズの観点から

四條知恵

1

被爆体験の「継承」

継承という言葉の意味

◆うけつぐこと。承継。

[広辞苑 第六版]

◆ひきつづいて、うけつぐこと。先代や前任者などの地位や身分、財産、権利、義務などをうけつぐこと。承継。

[日本国語大辞典]

2

戦後二十八年にわたる被爆者の
 〈生〉は、彼らの引き続く〈原爆体
 験〉の歴史である。この〈歴史〉の中
 に、〈原爆〉は、その全き姿を表出
 する。被爆者の生の〈苦悩〉がすな
 わちそれである。(石田 1973: 1)

3

趣旨

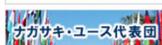
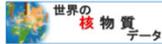
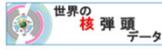
『長崎の証言の会』発行の雑誌『長崎の証言』は、長崎で最も大きな被爆体験の資料群の一つであるとともに、原爆に関する文字・芸術作品、平和教育教材、時評、時々の運動の展開やその感想、資料などの種々の原稿が掲載され、1960年代後半以降の長崎の原爆被害、核にまつわる動きや市民運動をめぐる戦後史の貴重な資料群ともなっている。長崎の戦後史を継ぐデータベースとしてこの情報を活用するため、同会の協力を得て、目次のデータ化およびニュース・通信のPDF化を行い、広くその成果を公開する。

※データ化には、2014・2015年度科学研究費『「証言」という語りの形成と変容——長崎の原爆被害を事例として』（課題番号：26885058）を使用した。



RECNA 叢書

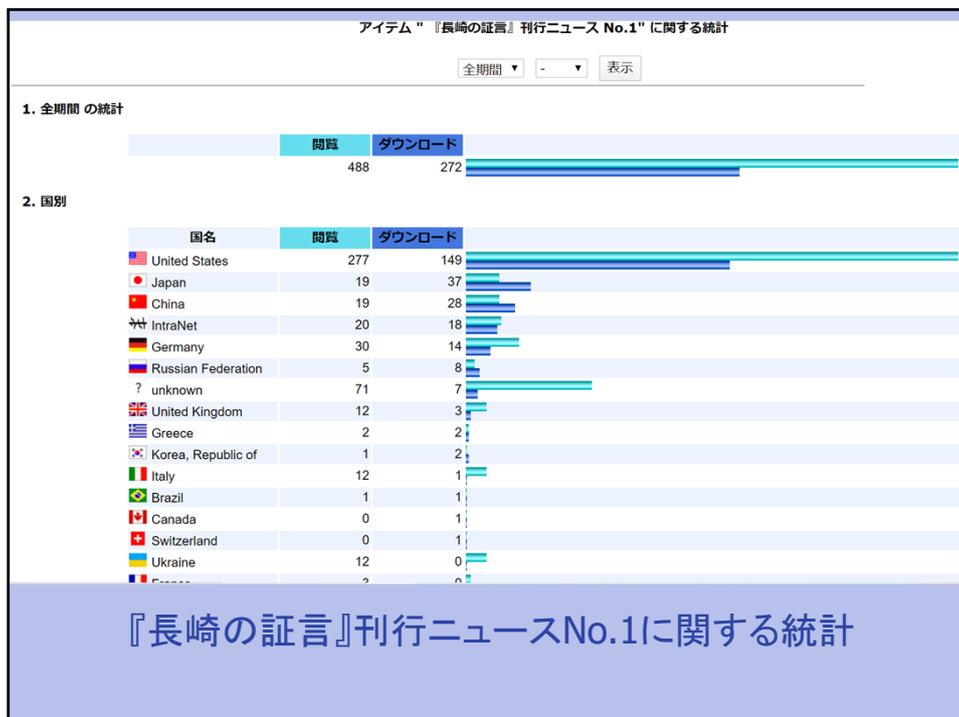
長崎大学核兵器廃絶研究センター



『長崎の証言』データベース(2016)

<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/publication/actual-phase/testimony>

4



5

原爆被害をめぐる歴史資料(文書)

県・市が関係する資料

- 市史や原爆戦災誌編纂時の収集資料
- 長崎県、長崎市、関連市町村の公文書
- 学校関係資料

地域資料

- 個人資料
 - ・印刷物(ビラ、名簿など)
 - ・手書き文書(日記、手紙など)
 - ・証明書類
- 団体資料
 - 各事業所、自治会、**市民団体**、私立学校、宗教団体など
 - (刊行物、日誌、会計簿、調査票、議事録、**通信・ニュース**、ビラなど)

時期： 戦前～原爆被害～戦後

6

○戦後史を含む資料のアーカイブズ機能が弱い
→戦争体験を持つ方が亡くなる中で、
資料の散逸が懸念される

歴史資料：時代と時代、人と人をつなぐツール

7

「被爆体験の継承」

- ・核兵器廃絶、平和の発信
- ・原爆被害関連の資料の保存・活用

8

参考文献

- ・広島平和記念資料館, 2004, 『平成16年度第1回企画展 動員学徒——失われた子どもたちの明日』.
- ・石田忠編著, 1973, 『反原爆——長崎被爆者の生活史』未来社.
- ・長崎の証言刊行委員会, 1970.4.3, 『「長崎の証言」刊行ニュース』 No.1.
- ・直野章子, 2017.4, 「『被爆体験の継承』再考——記憶を導きとして」『歴史学研究』(956): 44-52.
- ・核兵器廃絶研究センター, 2016, 「長崎の証言」, RECNAホームページ(2020年2月11日取得, <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/publication/actual-phase/testimony>).
- ・四條知恵, 2019, 「散逸する長崎の歴史資料——公文書館設立への提言」『平和文化研究』第40集.